

3D アバターの標準規格「VRM」を策定する VRM コンソーシアム メタバースの国際的なフォーラム 「Metaverse Standards Forum」に加盟

一般社団法人 VRM コンソーシアム（代表理事：石井洋平、所在地：東京都中央区）は、The Khronos Group Inc.（President：Neil Trevett、所在地：アメリカ・オレゴン州）が主催するフォーラム「Metaverse Standards Forum」に加盟したことをお知らせします。

「VRM」は、メタバース時代のインターオペラビリティ（相互運用性）を想定した、プラットフォーム非依存の日本発の 3D アバター向けファイル形式で、既に国内ではプラットフォーム間でアバター連携する際の事実上の業界標準規格として広く使用されています。その「VRM」の策定・普及を目的とした VRM コンソーシアムは、これまで Metaverse Standards Forum 主催の



Metaverse
STANDARDS FORUM™

Khronos Group と CG の国際会議・イベント「SIGGRAPH」で共同セッションを実施するなどの連携を図ってきました。今回の加盟により、Metaverse Standards Forum のディスカッションに参加することで、これらの動きを加速させ、「VRM」のグローバルでの標準規格化を目指すとともにグローバルなメタバース標準の形成と発展に寄与してまいります。

<「VRM」について>

VRM は、メタバース時代のインターオペラビリティ（相互運用性）を想定した、プラットフォーム非依存の日本発の 3D アバター向けファイル形式です。従来の 3D モデルとしてのテクスチャやボーンといった情報に加え、視線設定など一人称で操作するアバターに必要な情報を扱えるようにし、環境により異なるスケールや座標系などを統一することで、3D アバターがあらゆるプラットフォームで使用されることを想定しています。また、人が操作して人格を演じるアバターの特性を考慮して、このアバターを他人が使用しても良いか、暴力表現をしても良いか、などアバター特有の権利までもファイルに埋め込むことが可能です。現在はバージョン 1.0 β を展開中です。

◆VRM 1.0β

<https://github.com/vrm-c/vrm-specification/tree/master/specification>

◆VRM パブリック・ライセンス文書 1.0

アバターの人格に関する許諾を考慮した、VRM 独自のライセンスです。

日本語：<https://vrm.dev/licenses/1.0/index> / 英語：<https://vrm.dev/en/licenses/1.0/index>

<「VRM コンソーシアム」について>

3D アバター向けファイルフォーマット「VRM」の策定・普及を目的とした一般社団法人です。

【名称】 一般社団法人 VRM コンソーシアム

【設立日】 2019年4月24日

【所在地】 東京都中央区銀座 4-12-15

【事業内容】 (1)3D アバターモデルの統一規格「VRM」の策定
(2)「VRM」に関連する情報の収集および提供
(3)「VRM」の普及および広告宣伝
(4)「VRM」により創作される 3D モデルの法的保護に関する提言及び整備
(5)「VRM」に関する内外関係機関との交流および協力
(6)前号に掲げるもののほか、当法人の目的を達成するのに必要な活動

【役員構成】

代表理事 石井 洋平（株式会社バーチャルキャスト）
理事 岩城 進之介（株式会社バーチャルキャスト）
理事 大前 広樹（ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン株式会社）
理事 清水 智雄（ピクシブ株式会社）
理事 久保田 瞬（株式会社 Mogura）
理事 松本 有啓（株式会社 M O E グループ・ホールディングス）
監事 中川 直政（弁護士 日比谷パーク法律事務所パートナー）

【公式サイト】 <https://vrm-consortium.org/>

【会員のお申し込み・お問い合わせ】 VRM コンソーシアム事務局：vrmc-pr@vrm-consortium.org

本件に関する報道関係のお問合せ先